無伴奏女声合唱曲:日本旋法による三つの聖母賛歌 (N.B.1)

高 橋 正 道

Composition Note: "TRES LAUDES IN HONOREM B. MARIAE VIRGINEM, MODE ORIENTALI"

Masamichi Takahashi

- (1) Regina caeli 〈天の元后、アレルヤ〉
- (2) Salve Regina <元后あわれみの母>
- (3) Saive Mater <めでたし、慈しみ深い母>

作曲: 高橋正道 (1998年2月20日 初演)

【作曲ノート】

カトリック教会は、聖母マリアに対する崇敬から多くの聖母賛歌を持っている。この三つの聖歌は、ヨーロッパのゴチック時代に隆盛を極めた典礼聖歌のグレゴリオ聖歌に起源がある。ルネッサンス期には、このグレゴリオ聖歌は、変容して新しい音楽様式となった。これが、ポリフォニーによる合唱音楽である。作曲家は、競うようにこの新しい技法を駆使して曲を作った。以降もヨーロッパの音楽史全体に数々の名曲が生まれ、修道院やカテドラルで典礼聖歌として聖歌隊によって演奏された。そして、今日でもそれは、有効で継続している。(N.B.2)

従って、この作品は、現代聖歌の創作という積極的姿勢を持っている。

まず、「日本旋法による」と付した事につい

て、以下二つの観点から述べる。

1. 歴史的旋法理論の観点から

先に述べたように、この聖歌のルーツは、ヨーロッパ中世期のグレゴリオ聖歌にある。単旋律で伴奏も持たないグレゴリオ聖歌の特徴のひとつは、リズム的特性である。それは、今日我々が親しんでいるような、拍子の枠組みの中で作曲されてはいない。自由なリズムである。祈りのことばを拍子の枠組みに押し込む事をしなかった。聖書のことばに意味を込めて発すれば、自由なリズムとなった。もうひとつの特徴は、旋律的特性である。祈りのことばをどのような音で発するか、つまり、旋律のめぐらせ方である。祈りを音にしてめぐらせる方法には、四つの方法があった。レの旋法、ミの旋法、ファの旋法、そしてソの旋法である。これが、教会旋法の基本的類別

である。(N.B. 3)

それぞれの旋法には性格があり、祈りのことばに合わせて、ふさわしい旋法が選択されて歌われた。従って、グレゴリオ聖歌は、ヨーロッパ世界の民族の琴線に触れるプリミティーヴな旋律的性格を有している。

さて、「日本旋法による三つの聖母賛歌」は、日本固有の旋律的めぐり方によって作曲したものである。日本の旋律を性格づけるものは、日本の伝統音楽の源泉となっている日本旋法である。陽旋法と陰旋法とは、その代表である。陽旋法は二つ、陰旋法は三つの種類に分類される。(N.B. 4)

当然のことながら、これらは、ヨーロッパの旋法とは異なる。従って、当該作品は、ヨーロッパの旋法によって作曲したものでなはないので、あえて「日本旋法による」と断り書きを付記する必要性があった。断らなければ、「多くの場合、ヨーロッパの長調か短調で作曲されている事を了解」しているのことになってしまう。(N.B.5)

2. 聖歌の.現代的課題の試作という 観点から

典礼音楽の現代的課題は、典礼における会 衆の行動的参加を促進する事、また民族の伝 統的文化との融合をはかる事である。今日、 カトリック教会でも、聖歌の新しい創作的試 みを行なっている。典礼聖歌の普及は、その 一つの成果である。また、各組織、団体でも 独自の聖歌を作り、集いに利用しているのは 衆知の事である。日本語を歌詞にした平易な 音楽は、誰にでも簡単に歌う事ができる。ま た、誰にでもそのような曲は、作曲できるよ うでもある。しかし、国語使用と伝統文化の 融合を聖歌に関係するところで考えると、現代聖歌の動向には、根本的に欠如している事がある。それは、日本の旋法を使った作品があまりにも少ない、という事である。(N.B. 6)

新作聖歌は、確かに日本語を使用しているが、旋律については、そのほとんどが、完全にヨーロッパの音階を借用している。つまり、聖歌の旋律は、やはりヨーロッパの音階である事を自明の事として了解している。

もちろん様々な試みがあっていいだろう。 事実、各種の聖歌が作られつつある。そして、 この「日本旋法による、三つの聖母賛歌」も また、典礼音楽に関する指針で奨励されてい る現代的課題への一つの試みとして発表する ものである。(N.B. 7)

尚、この作品を、その音響から「日本<的>だ」と評されるのは自由だが、それだけでは、当たってはいない。日本旋法そのものから「的」という曖昧な断定は、あり得ないのである。「六段の調べ」を日本<的>とは言わない。また、グレゴリオ聖歌をヨーロッパ<的>とも言わない。それは、日本<の>調べであり、片やヨーロッパ<の>聖歌である。芸術上、問題となるのは、それが何を伝えようとしていて、実際に何を伝えられたか、が問題なのである。

【演奏に際して】

第1曲:Regina caeli ノートルダム楽派の オルガヌムの手法を使ってある。和音を保持 するパートは、力強く歌う。ホクエトゥス(し ゃっくり) の技法も挿入した。

第2曲:Salve Regina 教会旋法のレの旋 法は、陰旋法と共通の雅びさがある。聖母マ リアの気品と優しさをのびやかに歌う事で表 現して欲しい。自由リズムで歌う斉唱部分は、 (N.B.4) 小山清茂/中西覚、「日本和声」PP. ことばを生かして歌う。

第3曲:Salve Mater misericordiae 韻を 踏んだ歌詞によっている。ことばと区切りを 明瞭にする為にファミリア・スタイルで作ら れている。生き生きと前へ進めて歌う。

【注】

- (N.B.1) この作品は、長野冬季オリンピック 文化・芸術祭参加プログラム「NOTA JAPONICA 日本の響き」に際して 出品、初演された。主催:作曲集団た にしの会 指揮:飯田忠文 合唱: 女声合唱団コール・ユニオン(円福幼 稚園附属、代表:小山雅江) 演奏会 場:長野県県民文化会館中ホール
- (N.B.2) 第二バチカン公会議の「典礼憲章」は、 国語による聖歌を奨励したので、各国 で真摯な取り組がある。しかし、また 「典礼音楽に関する指針では、」伝統的 な聖歌も同じように大切にし、それか ら学ぶよう喚起している。 (憲章101,116) (指針51,59)参照
- (NB.3) 水嶋良雄、『グレゴリオ聖歌』p.87、音 楽乃友社、昭和41年。

- 9~24、音楽乃友社、1997年。
- (N.B. 5) < NOTA JAPONICA>プログラム解 説<作品について>当該作品の項、参
- (N.B.6) カトリック聖歌集には、高田三郎作曲 「やまとのささげうた」が入っている。 また、同氏による「雅楽の旋法による、 マリアの歌しは、バチカンで演奏され た。尚、1995年、カトリック正義と平和 委員会主催、「戦後50周年、被爆50周年 広島大会」において、拙作による「日本 旋法による、平和のミサーが捧げられ た。
- (N.B.7) 「音楽家たちは、典礼のために真の宝 庫を教会に提供してきた伝統を追求す るという熱意に動かされて、新しい課 題に取り組むべきである。彼らは、過去 の作品のスタイルや特徴を学ぶべきで あるが、同時に典礼の新しい規定と必 要とを注意深く考慮し、それによって 『すでに存在している形態から、新し い形態が、いわば有機的発展成長して くるように』(憲章23)、そして新しい作 品が、教会の音楽的宝庫の新しい部分 として、過去の作品に比らべて恥ずか しくない部分となるように配慮すべき である。」(典礼音楽に関する指針59)よ n 。

【日本語訳】

1. [Regina caeli]

Regina caeli laetare,alleluia: 天の元后、アレルヤ。

Quia quem meruisti portare, alleluia: あなたに宿られた方は、アレルヤ。

Resurrexit sicut dixit, alleluia: おおせのように復活された。アレルヤ。

Ora pro nobis Deum, alleluia. われらのために祈り給え。アレルヤ。

2. [Salve Regina]

Salve Regina, mater misericordiae, 元后あわれみの母。

Vita dulcedo, et spes nostara, salve. 我らの命、喜び、希望。

Ad te clamamus, exsules, filii Haeve. 旅路からあなたに叫ぶエバの子。

Ad te susupiramus, gementes et flentes in hac lacrimarum valle. 嘆きながら、泣きながらも涙の谷に あなたを慕う。

Eia ergo Advocata nostara, illos tuos misericordes oculos ad nos converte. 我らの為に、とりなす方、哀れみの目を我らに 注ぎ、

Et Jesum benedictum fructum ventris tui, nobisu post hoc exsilium ostende, 尊い貴方の子、イエスを旅路の果てに我らに示して下さい。

O clelmns, O pia, O dulcis Virgo Maria. おお、いつくしみ、恵みあふれる、喜びの乙女マリア。

3. [Salve Mater]

Salve Mater misericordiae, Mater Dei, et mater veniae, めでたし いつくしみ深い母、神の母、ゆるしの母、

Mater spei, et mater garatiae, 希望の母、恵みの聖母、

Mater plena sanctae laetitiae, O Mria! 尊い喜びにあふれる母、おお、マリアよ。

Salve decus humani generis, めでたし人間のほまれ。

Salve Virgo dignior ceteris, 乙女の中の乙女、

Que virgines omnes transgrederis, すべての乙女にまさり、

Et altius sedes in superis, O Maria! 天の高みに座る方、おお マリア。 Soprano 1

Soprano 2

Alto

TRES LAUDES IN HONOREM B.MARIAE VIRGINEM, MODO ORIENTALI

1. Regina caeli





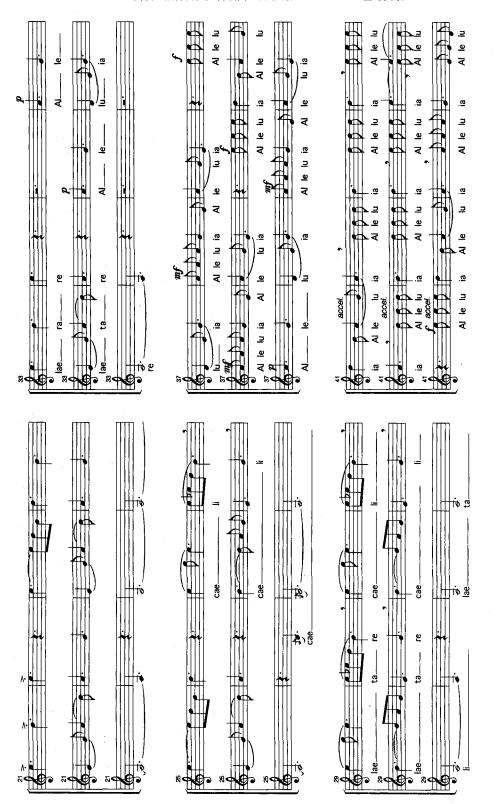


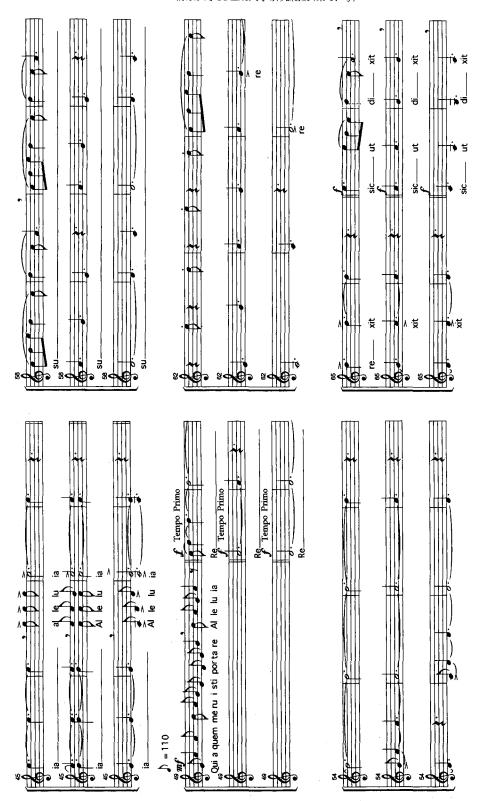




(1)

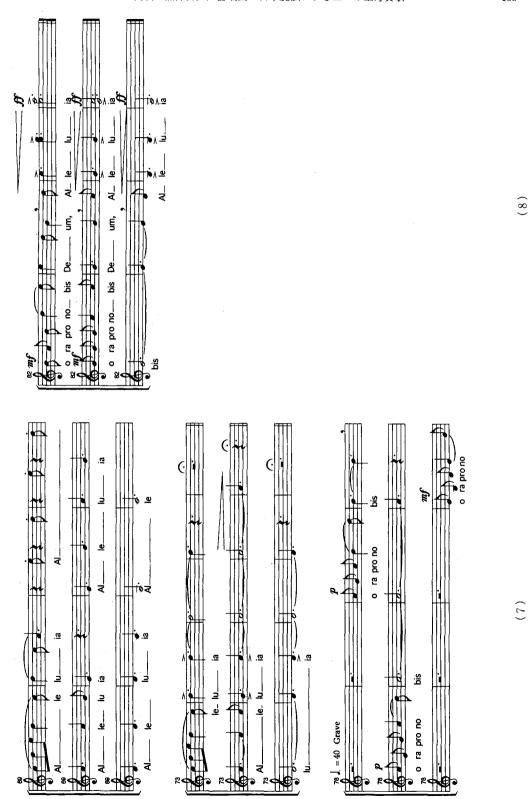
(3)





(9)

(2)

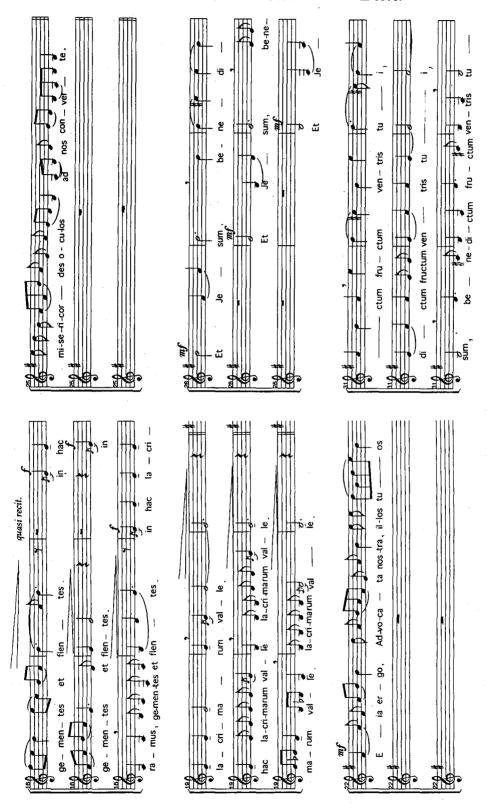


(10)

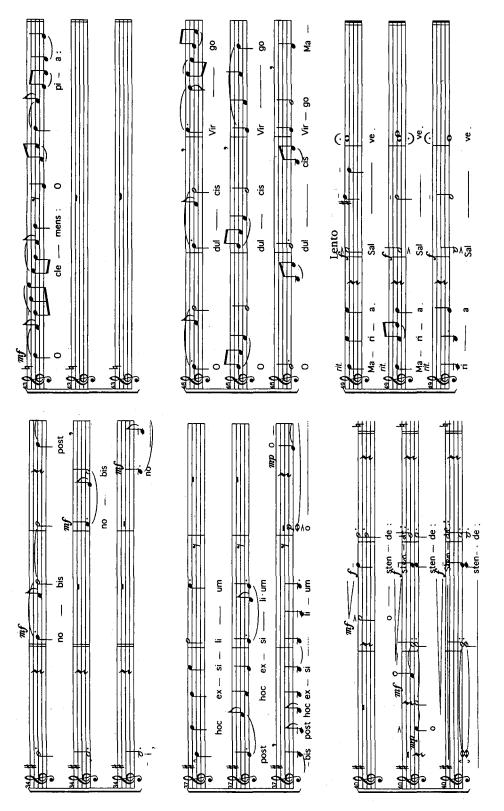
(6)



(12)



(11)



(14)

(13)

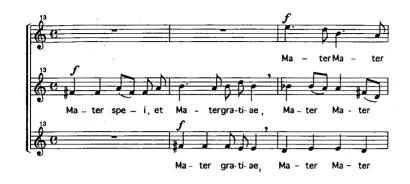


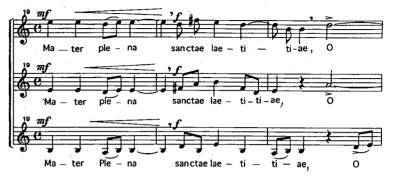


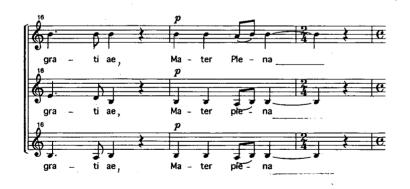




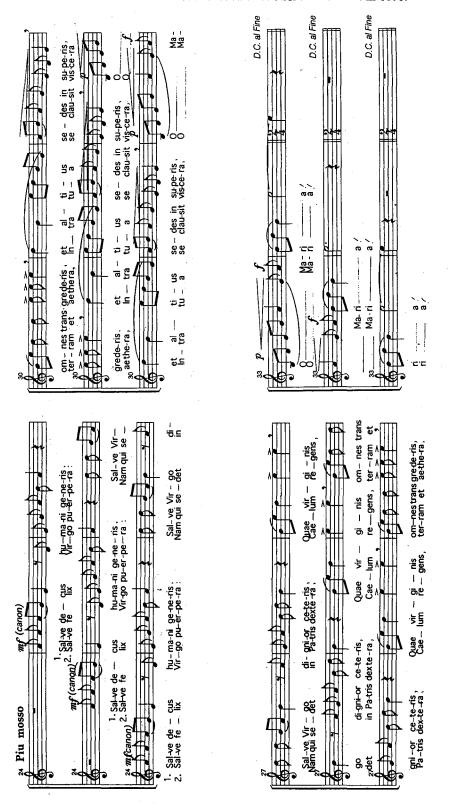












(20)

(19)